

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 1 月 24 日 11:21AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,000～45,000 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～20,260

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～158.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～110.895

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

2025 年に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4 万 3000 円-4 万 5000 円]です※。

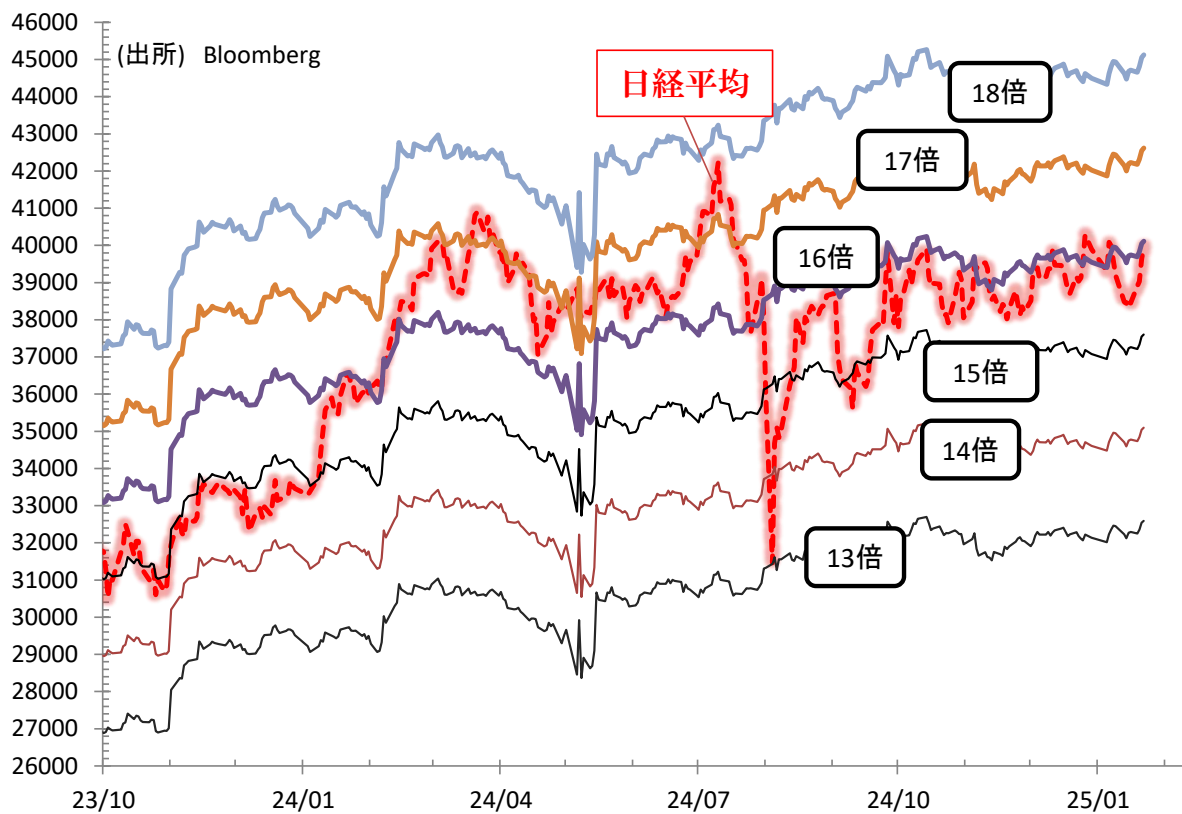
この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来 5 年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の 3 年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

なお 24 年 7 月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いているとみられます。
この見方によると、第(5)波上昇が始まる前に、日経平均は一度大きく下押すことになります。

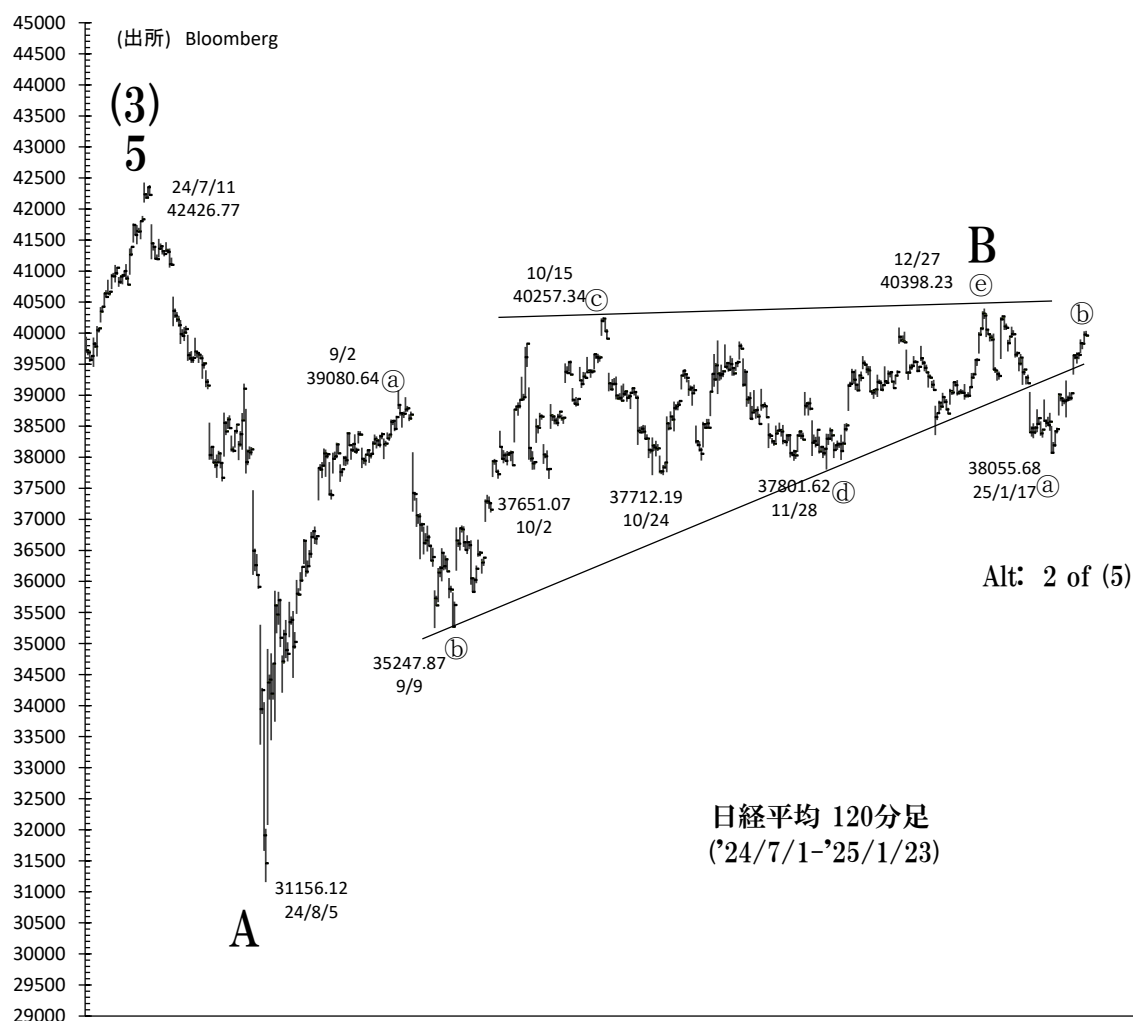
※2025 年の日経平均予想レンジは[3 万 5000 円-4 万 5000 円]です。



[予想 PER 別の日経平均水準]



1月23日時点の日経平均予想 EPS は 2506 円。昨年 10 月 5 日に付けた過去最高値 2514 円に迫っています。高値更新なるか、引き続き注目しましょう。



【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)から第(4)波中 C 波による下落局面が進行中とみられます。C 波は 24 年 8 月から約 5 カ月かけて形成された、上昇ウェッジから下放れ始めたところです。

第(4)波のパターンとして「シンメトリカル・トライアングル」をイメージしています。この見方通りなら、C 波は三波構成 (a)-(b)-(c) となります。38,055 円(1/17 安値)からは C-(b) 波によるリバウンドと読めます。そうであれば、来週にも C-(c) 波による下落が始まるでしょう。

第(4)波がトライアングルではなく他のパターンなら、例えば「フラット」のケースにおいては、C 波は五波構成になります。

いずれにしても日経平均は、昨年 8 月底に次ぐ二番底を模索する展開が続くでしょう。

今後数週間タームでは、24 年 10 月からのレンジ相場下限 (37,650~37,800 円) を試す展開となりそうです。さらに今後数カ月内をメドに、24 年 9 月安値の 35,247 円を一時的にも下回る可能性があります。

ただし 40,398 円を上抜くと短期的な弱気見通しは否定されます。この場合は、38,055 円以来、第(5)波中 3 波による上昇という見方が考慮されます。

NY ダウ



【日足 エリオット波動分析】

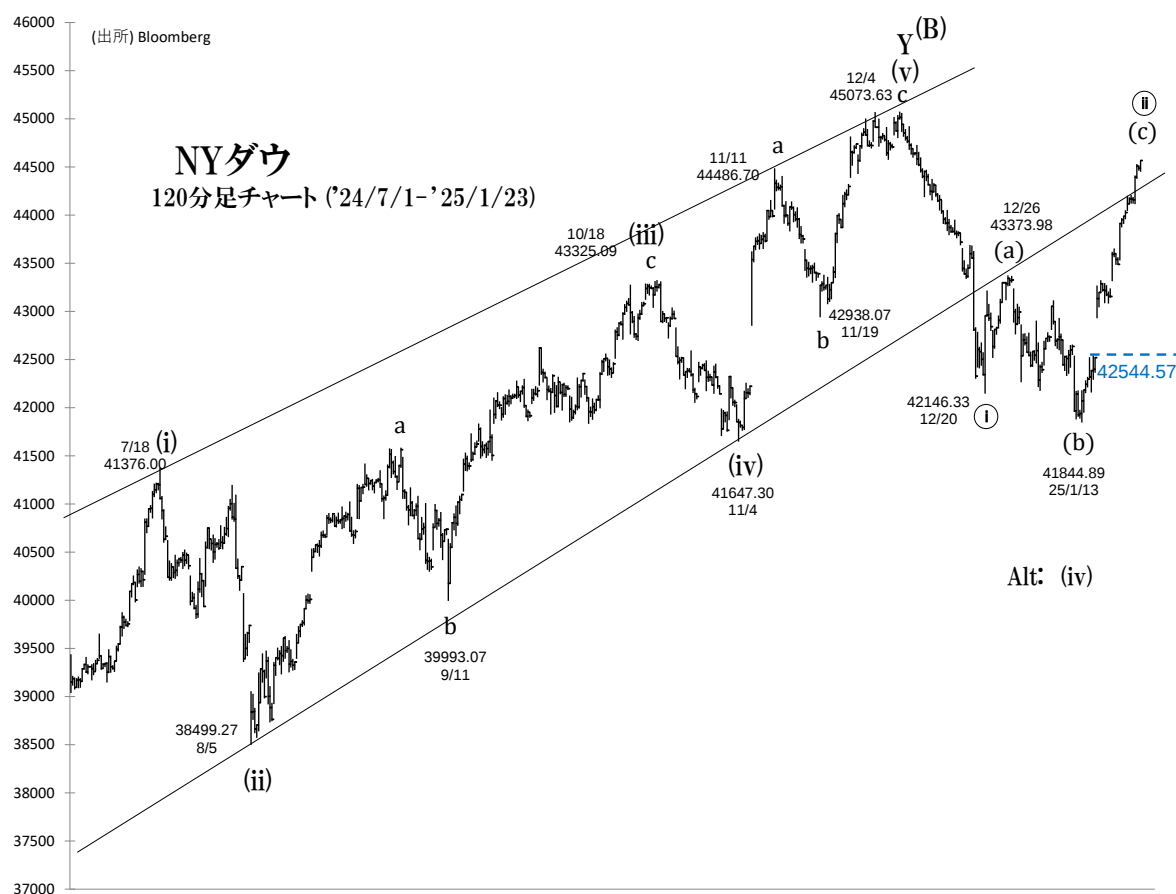
NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660 ドル)以来の上昇(B)波を 45,073 ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。それは先々、22 年 10 月以降で一度もなかった大きなスケールの調整に発展していくでしょう。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。

今後数カ月内の下値ターゲットとして注目される水準は、24 年 4 月安値(37,611 ドル)です。これは[エンディング・ダイアゴナル]開始点の水準のことで、この時点における NY ダウの高値からの下げ率は 16.5%です。

なお S&P500 は一時 6118 まで上昇し(1/23)、前日に続き史上最高値を更新しました。ただし、日足チャートにおける「三空」出現は、短期的にも S&P500 がピークを迎える可能性を暗示しています。

ちなみに S&P500 の長期チャートを見ると、1929 年と 2000 年の大天井を通る長期レジスタンスラインが今月は[6161]に位置しています。S&P500 は、長期的にも重要な天井を付ける可能性があります。



【時間足 エリオット波動分析】

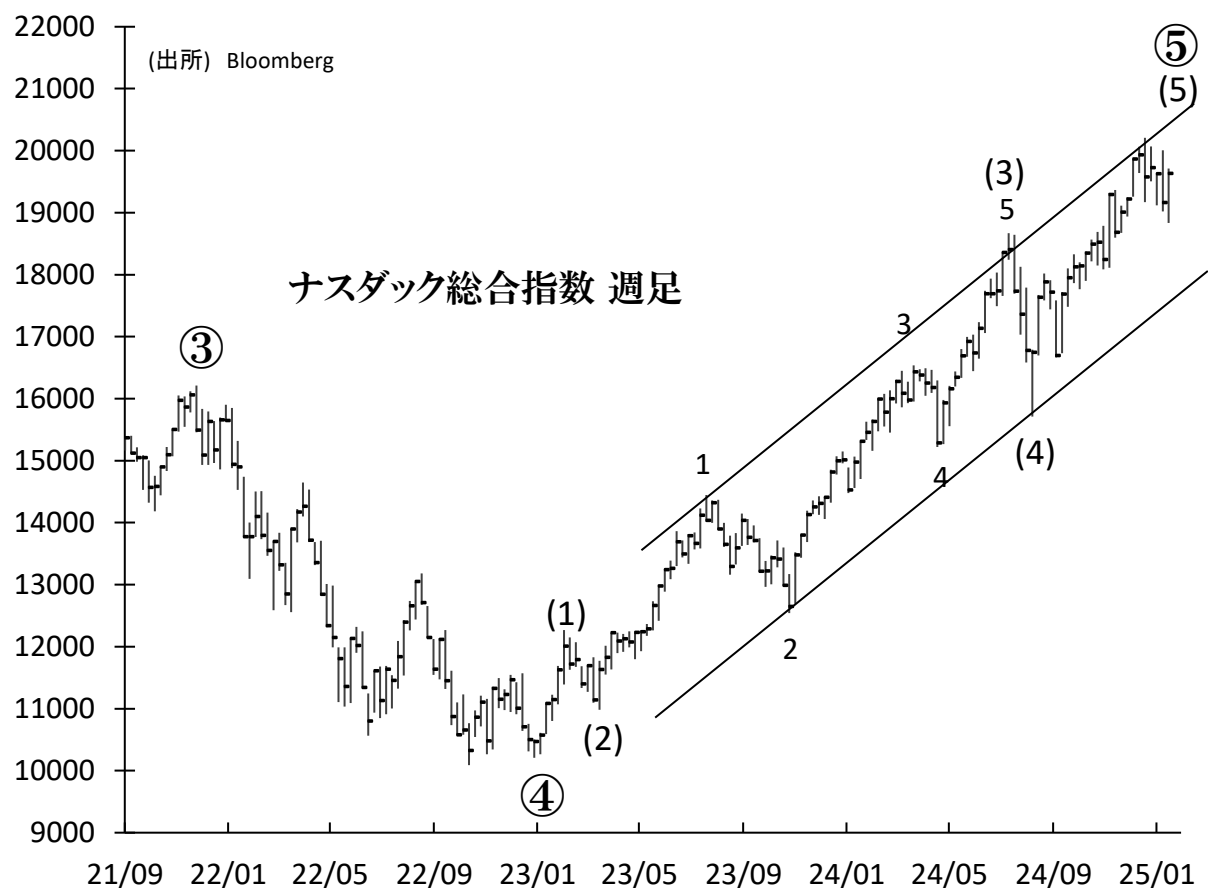
1月23日には一時44,565ドルへ上昇しました。

42,146ドル(12/20 安値)からのマル ii 波「エキスパンディッド・フラット」は終了しつつあり、この見方が正しいければ、近々マル iii 波による下落開始が想定されます。

ひとたびマル iii 波が始まれば、その下げ幅と下げ率は、マル i 波(上記)を凌駕する大きなものになるでしょう。

その一方、S&P500 の最高値更新に遅れて、NY ダウも高値を更新する展開があるかもしれません。その場合は、41,844ドル(1/13 安値)からを第(v)波による上昇とカウントし直します。

ナスダック



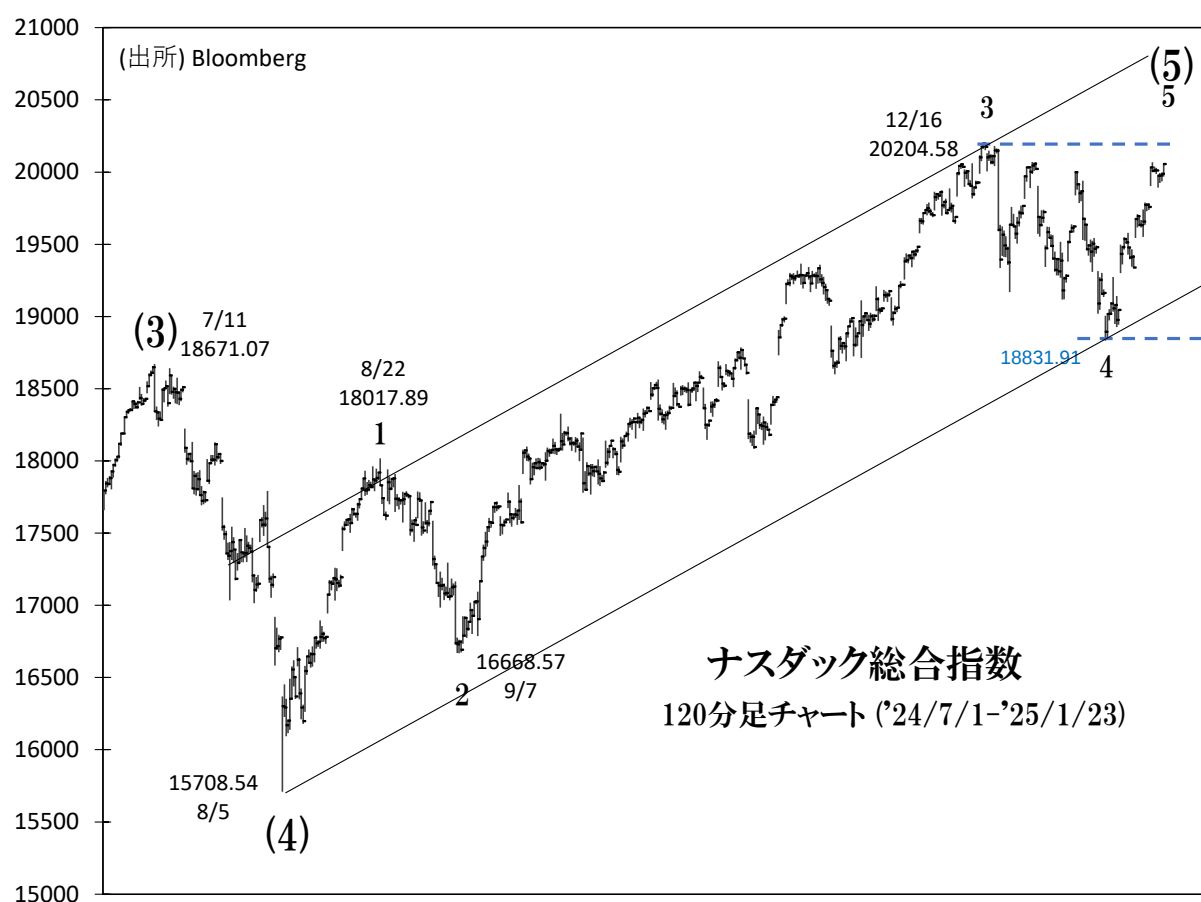
【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来の上昇は、プライマリー級の第⑤波とみられます。

この波動カウントによれば、第⑤波は五波構成((1)~(5))です。**24 年 8 月安値 15,708 からの第⑤-(5)波による上昇が完了すると、長期上昇トレンドが終了します。**

短期的には最高値更新があるかもしれませんが、今後の展開は予断を許しません。

遠からずナスダックは長期的な天井を付け、サイクル級の調整に入るでしょう。サイクル級の調整規模は大きく、期間的にも長くなると予想されます。



【時間足 エリオット波動分析】

1月23日に、ナスダック総合指数は一時20,053まで上昇しました。

注目節目の20,007を上回ったことにより、オルタナティブ・カウントにシフトします。すなわち、24年8月安値(15,708)以来の上昇は第(5)波です。この上昇トレンドは、五波動構成(1-2-3-4-5)であり、18,831(1/13安値)からの上昇は、第5波に当たります。

おそらくこの**第5波**によりナスダックは、**20,204**を上回るでしょう。

第1波と第5波が、上昇幅において1:0.618のフィボナッチ比率関係を示すなら、**[20,258]**が第5波のターゲットです。

さらに上値試しが続くようなら、**[21,017-21,141]**がターゲットです。前者は第3波と第5波が1:0.618になり、後者は第1波と第5波の上げ幅が等倍になる水準です。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。なお24年7月の161.938円は、15年6月・125.860円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

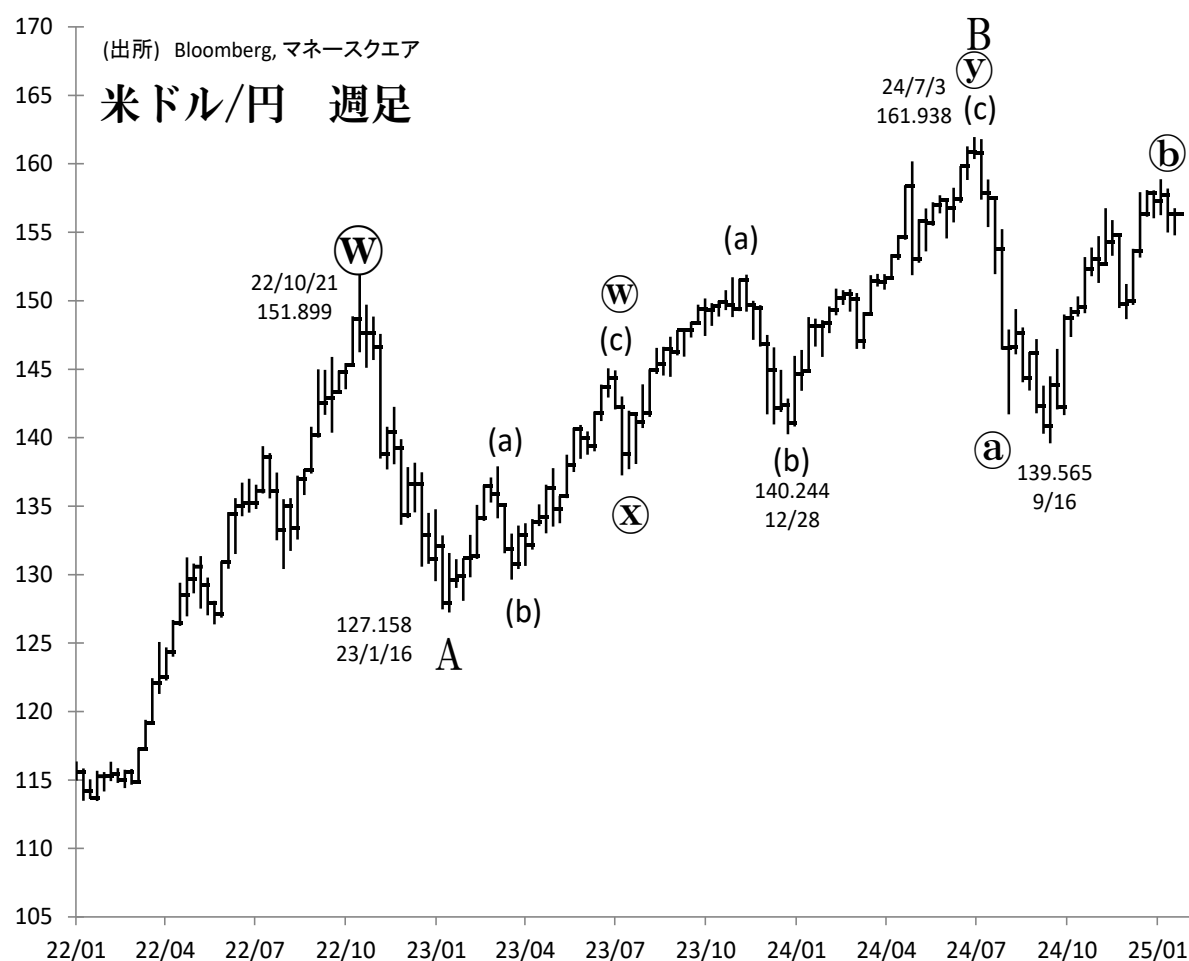
22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は135.655円(1月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.030円(1月)です。

なお足元水準は、2011年からの上昇チャネル上限を上回っていますが、このようにドル/円が長期トレンドから上方を逸脱するのは今回3回目です。過去2回のケースでは(円買い介入によって)極端な円安はまもなく修正されており、今回も同様の動きとなるかに注目です。



【週足 エリオット波動分析】

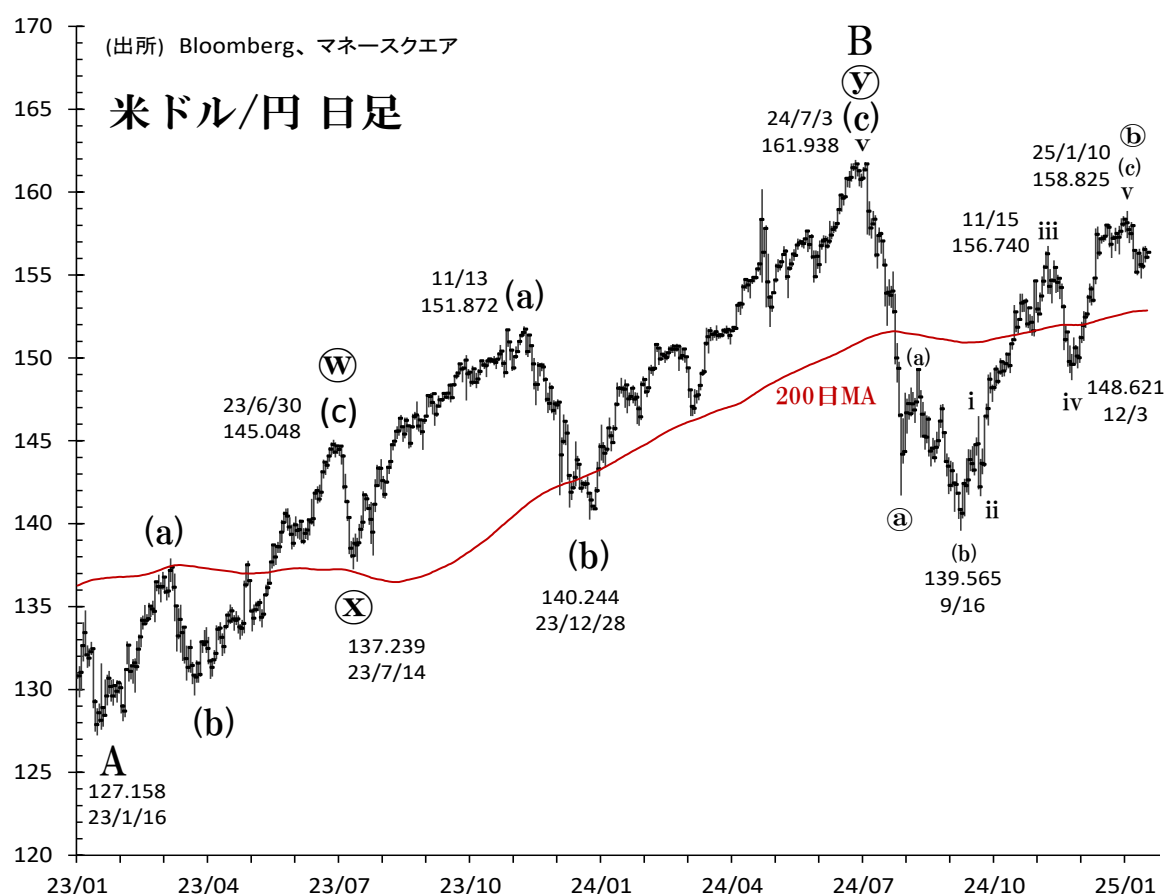
161.938 円(7/3)からは C 波によるドル安・円高が進行中であり、足元は副次波⑥波が終わったかを見定める局面です。実際、⑥波は終わり③波によるドル安・円高に入った可能性があります(後述)。

今年 2025 年中に、ドル/円は 139.565 円(9/16)を大きく下抜く展開を想定しています。

24 年 7 月高値を上抜いたときの考え方

メインシナリオ上、24 年 7 月高値(161.938 円)を上抜くことはない、とみています。しかし見通しと異なり、161.938 円を一時的にも上抜く場合には、「8 年サイクルの延長」の可能性が考慮されます。

8 年サイクルは、8 年±16 カ月(80 カ月～112 カ月)が本来の期間であり、今回のように 15 年 6 月から始まった 8 年サイクルは、本来は 24 年 10 月までに完結するべきものです(この点からも 24 年 7 月は 8 年サイクルに相応しいものです)。しかし 161.938 円を上抜くとイレギュラーではありますが—8 年サイクルの期間は 10 年(120 カ月)まで延長されることでしょう。つまり 8 年サイクル高値を付けるのは、25 年半ばまでのどこか、と想定されます。



【日足 エリオット波動分析】

足元、日足は一目均衡表(示さず)の基準線(156.820 円)を下回って推移しています。さらに足元では、転換線が基準線を下抜き、従来の円安から円高へと基調が変わったことが示唆されています。

139.565 円(9/16)からの⑥波-(c)波によるリバウンドは 158.825 円(1/10)を以て終了し、㊦波によるドル安・円高が始まった可能性があります。

ドル/円は当面、50 日 MA[154.970 円処]、そして 200 日 MA[152.860 円処]を試すことになりそうです。

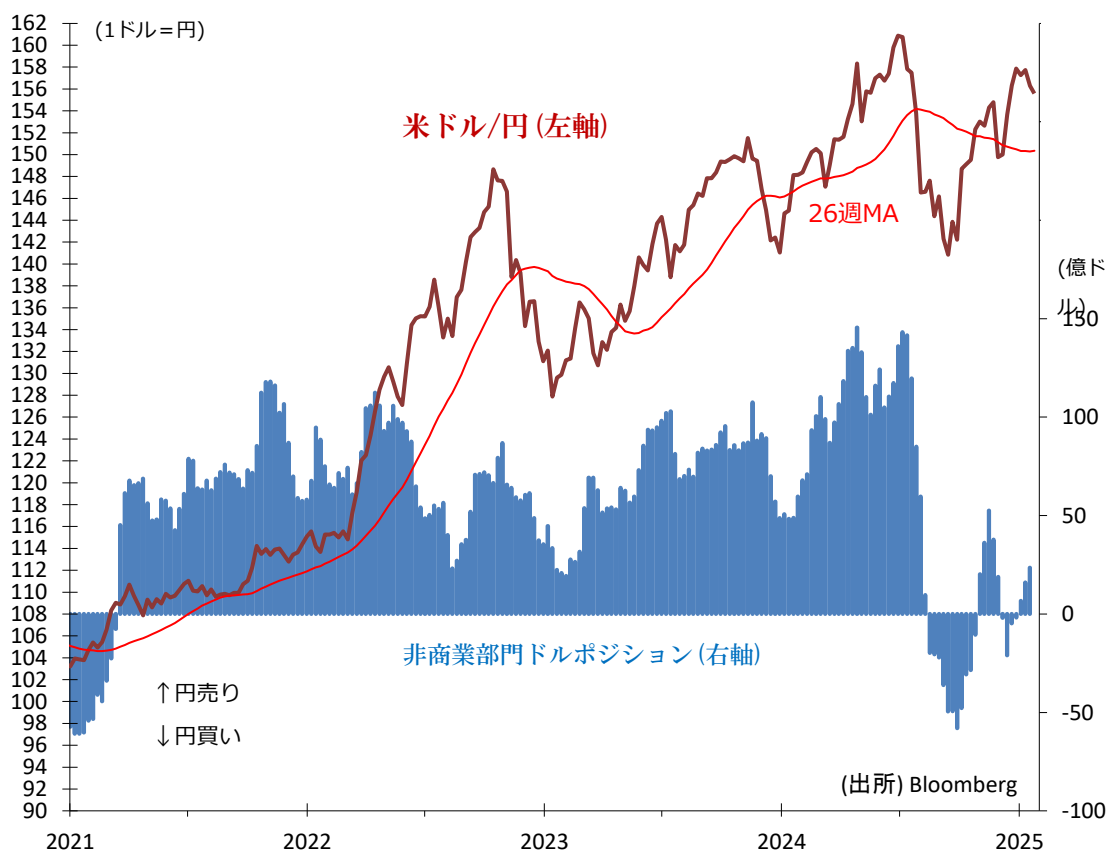
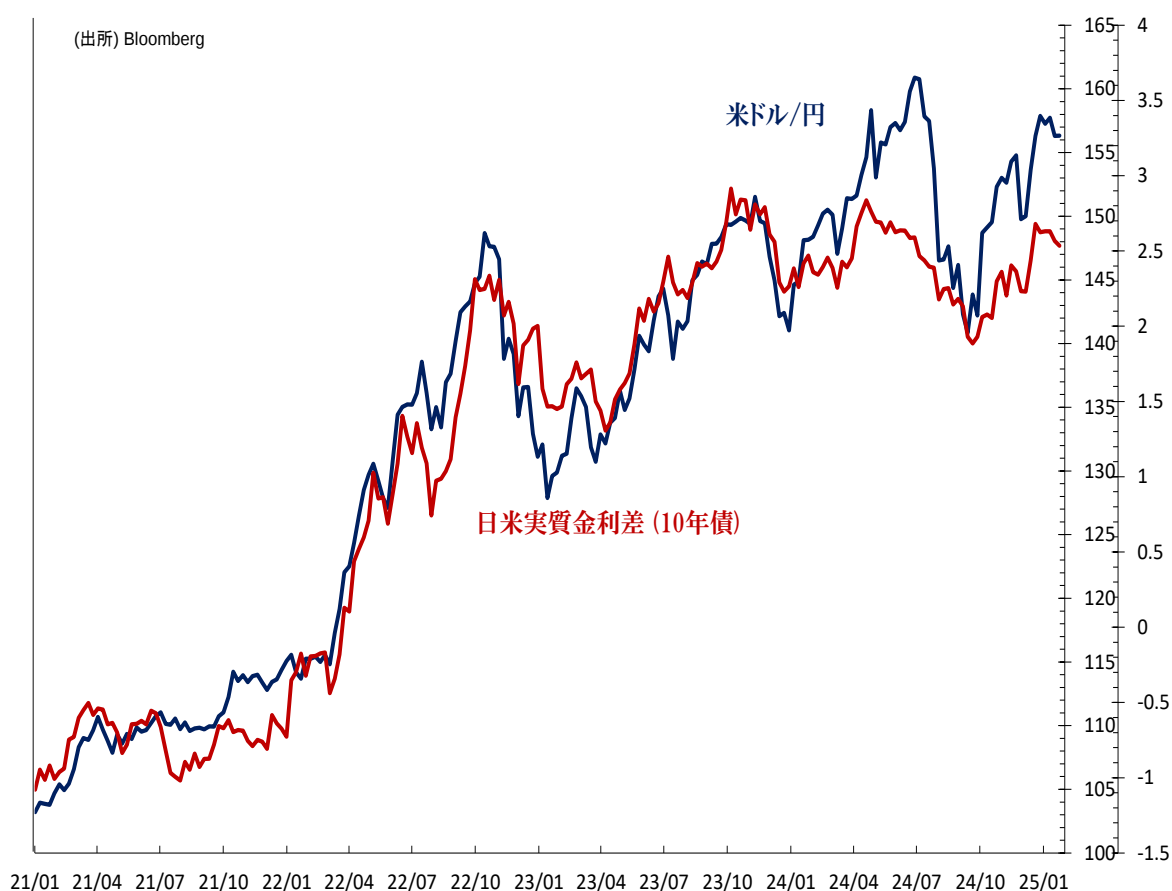
金利差からのドル/円推計値

1 月 15 日に日本国債 10 年物(JGB10 年)は一時 1.255%と、13 年半ぶり水準へ上昇しました。それは遠からず 1.300%を試し、さらには 1.515%-1.615%へ一段と上昇するかもしれません。この見方通りなら、米長期金利がさらに上昇しても日米金利差は広がらず、おのずとドル/円の上値も限られましょう。

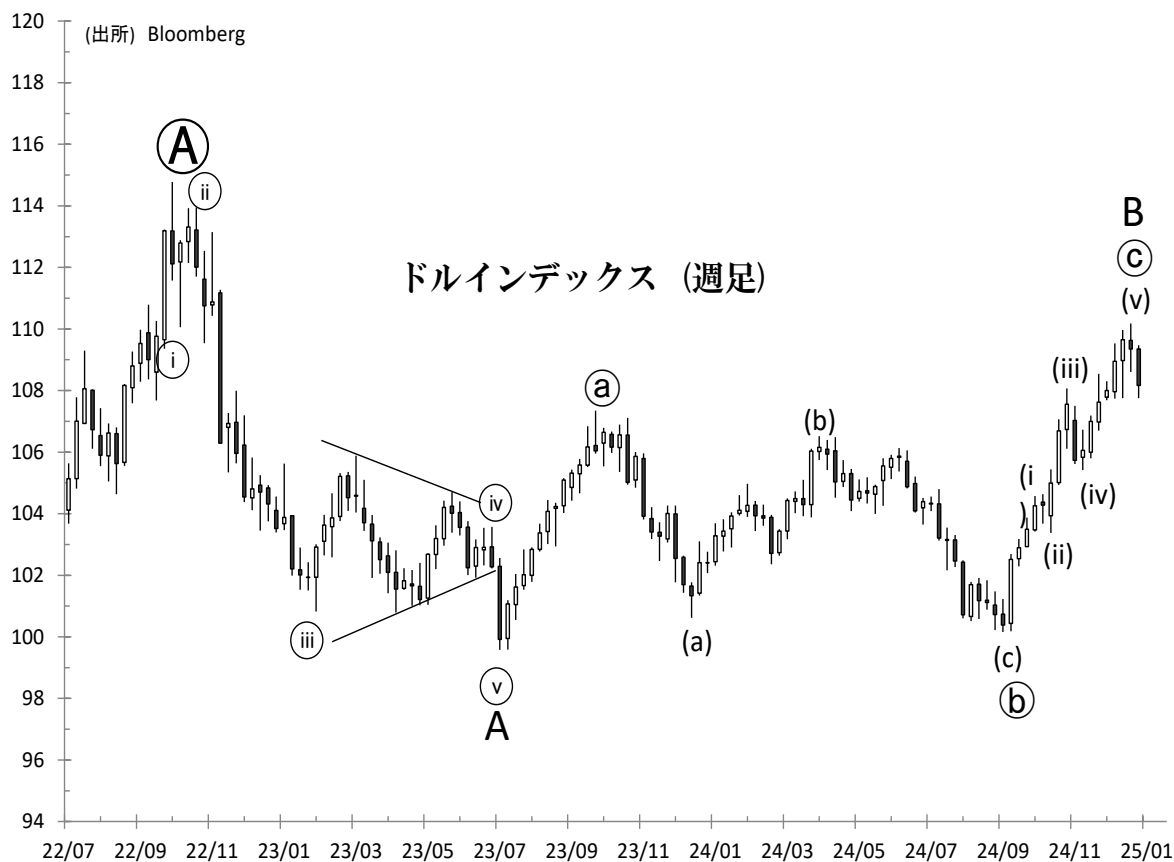
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[149.937 円]です。

投機筋の円売り持ち高が 2 カ月ぶり水準に増加(2025 年 1 月 14 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)による円売り持ち高は 3 週連続で増加。前週の 16 億ドルから 23.5 億ドルとなり、24 年 11 月 19 日(37.8 億ドル)以来 2 カ月ぶり水準となりました。



ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

1月22日、ドル指数は107.749まで下げ、注目していた節目である107.750を下回りました。
この微かなブレイクにより、110.176(1/13 高値)を以て24年9月からのB波-③波が終わった可能性が高まりました。

そして、**C波によるドル安が始まったという最初のシグナルが点灯しました。**

そうであればドル指数は、中期タームで下落していくでしょう。

22年9月～23年7月のA波において、ドルは10カ月で13.2%減価しました。このA波の期間と下落率は、C波を考える上で参考になるでしょう。

筆者はドル指数が今年中に、23年安値[99.578]を大きく下回る可能性をみています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
